国際会議参加記

第2回 国際ボルボックス会議に参加して 新垣陽子

2013年7月31日~8月3日,カナダのニューブランズウィック州フレデリクトンで行われた『第2回国際ボルボックス会議』に参加してきました。この会議は2011年に設立された新しいもので、世界各地からボルボックス研究者が30名ほど集まりました。研究者どうしがお互いをよく知っているため、とてもアットホームな雰囲気で、『ボルボックス好きによるボルボックスのための学会』という印象でした。初めての国際学会参加、初めての海外。要旨を提出し、準備にはかなり時間をかけたと思います。言いたいことを簡潔な英語にするのは想像以上に難しく、スライド・原稿・練習を指導教員の野崎先生をはじめ、先輩方に何度も見てもらいました。公開された参加者名簿には論文でよく見かける名前が並んでおり、期待と興奮が膨らんでいきました。

日本から約14時間のフライトで、学会2日前にカナダに 到着しました。カナダは映画のようなとてもきれいな国で、 ボルボックス採集やおいしいカナダ料理などを通して、事前 に参加者の皆さんと打ち解けて学会に臨めたと思います。

いよいよ学会が始まりました。ライフサイクルや発生、分類、遺伝、進化などの口頭発表のセッションとポスターセッションがあり、セッション間の休憩にも活発な議論が行われていました。発表者は学部生や院生から、長年研究を続けられている Annette Coleman 先生 (ブラウン大学)まで幅広く、アプローチの手法も様々でした。発表時間は 1人20分とたっぷりあり、研究背景から丁寧にお話された方が多く、とても



発表後のディスカッションの様子

勉強になりました。また、会場には飲み物の他に、大きなクッキーやとても甘いケーキなど、ティーパーティーのような軽 食がたくさん並べられ、国内学会とは全く違う雰囲気なのも 海外ならではだと思います。

学会2日目,ついに発表本番となりました。それまでおいしく頂いていた食事もほとんど喉を通らず、緊張はピークに達していました。あれだけ練習したから大丈夫。自分に言い聞かせ、ポケットの中の祖父の形見を握りしめて、発表に臨みました。最も不安だった質疑も座長のサポートでなんとか無事に終えましたが、自分の英語がどれくらい伝わったのかという不安でいっぱいでした。ですが、そのセッションが終わると、多くの方が声をかけてくれました。褒めてくれたり、アドバイスやコメントをくれたり、質疑の続きをしたり…。不安が達成感へと変わりました。論文の中だけで一方的に知っていた海外の研究者とのディスカッションは、とても刺激的だったとともに、研究を通して繋がれたことに喜びも感じました。顔と名前を覚えてもらえたことも嬉しかったです。

また、ボルボックス会議では"trivial night"という時間が設けられており、ボルボックスに関するアートやポエム、ムービー、ガラス細工などが出品されました。出品者それぞれのボルボックスへの愛を感じるとても素敵な時間でした。

これまで参加した学会では、自分の研究分野とは異なる分野の方から多くの気付きを頂いていましたが、今回参加したボルボックス会議では、同じテーマに興味を持って実際に研究をされている方々から直接意見を聞く事ができました。勉強不足を改めて実感したものの、海外の研究者と交流でき、いつか留学してもっと多くの研究者と話したい、学びたい、と考えるようになりました。初めてだからこそ感じたこともたくさんあったと思いますが、もっと英語が話せたら、もっと知識があって自ら積極的に議論に参加できたら、さらに多くのものを得られたと思います。今後の課題の1つとなりました

研究の世界に飛び込んだばかりの私にとって、今回ボルボックス会議に参加できたことはとても貴重な経験で、これからの研究への自信とモチベーションへと繋がりました。発表準備から本番までご指導してくれた野崎先生や先輩方、学会で出会った方々に感謝するとともに、今後もより意欲的に研究に取り組んでいきたいと考えています。

(東京大学大学院理学系研究科)